

press release



会期 令和3(2021)年 令和4(2022)年
12月17日(金) ~ 2月6日(日)

まもなく開幕!

休館日 12月25日~1月1日(年末年始)

開館時間 9:00~17:00

※金曜日は19:00まで、
入場は閉館の30分前まで
※12月17日(金)は10:00開場

料金 一般 1400円
高・大学生 1000円
小・中学生 700円

※前売・20名以上の団体は200円引き



- JR広島駅より約1km
- 広島城より約400m
- 市内電車(「八丁堀」で乗り換え)白島線で「縮景園前」下車20m
- ひろしまめいぶる~ぶ(市内循環バス、JR広島駅新幹線口のりば発着)「県立美術館前」下車(白島線沿い)



公式Instagram



広島県立美術館

Hiroshima Prefectural Art Museum

【開催趣旨】

浮世絵風景画の名手、歌川広重(1797-1858)は天保4年(1833)頃に《東海道五拾三次》を発表して以降、木曾街道や近江八景、京都名所、最晩年の傑作《名所江戸百景》まで各地に生きる人々の暮らしや自然の移ろいを詩情豊かに描き、日本人のみならず世界をも魅了しました。

本展では旅の楽しさが思い起こされる《東海道五拾三次》など風景画の名作を中心に、美人画や役者絵、花鳥画、戯画や同時代絵師の「雪月花」にちなんだ名品なども加えて、広重による叙情の世界を約230点で紹介します。

【歌川広重(1797～1858)】

《東海道五拾三次》などで世界的に知られる広重は、江戸の定火消同心(現代でいう消防隊)安藤家に生まれ、13歳で両親に先立たれて家督を継ぎました。しかし15歳で歌川豊広へ入門、その翌年には歌川広重の画名を許され、22歳までには自身の作品を発表しました。

苦節十余年目の転機となったのが、実際のスケッチに基づくという天保4年(1833)37歳頃の《東海道五拾三次》大ヒットでした。晩年に至っても描き続けられた彼の風景画には、雪月花の風雅と人情の機微が大胆かつ繊細に織り込まれているのが大きな特徴です。

安政5年(1858)流行のコレラ(コレラ)で急死。享年62歳でした。

【展示内容】

第1章 名作・東海道五拾三次と五十三次名所図会

江戸と京をつなぐ東海道には五十三か所の宿場があり、風光明媚な土地や名所も多い道中は大名行列やお伊勢参りなどで賑わいました。出世作にして私たちが思い描く広重風景画の原点は保永堂版《東海道五拾三次》55点であり、晩年の鳥瞰図《東海道名所図会》55点との比較を中心に、広重風景画の魅力を探ります。



東海道五拾三次之内 日本橋 朝之景 天保4年頃(1833)

江戸日本橋から京までは約500キロ、十数日余りの行程である。国元に帰る大名行列の出発は早朝(午前四時)で、同じころ商人たちは魚河岸で鮮魚を仕入れた。日本橋の賑わいが感じられる。



東海道五拾三次之内 蒲原 夜之雪 天保4年頃(1833)

人物にわずかな色彩が施されるほかはモノトーンで、しんと雪が降る静寂の世界を描いた、シリーズ中の傑作。広重がこの地を訪れたのは実は夏で、雪景は広重の創意である。

第2章 初期の美人画から風景画のはじまり—完成・円熟時代

初期には美人画や役者絵などを描いた広重は、風景画の人気の高まる時流にも乗って《東海道五拾三次》を発表しました。その成功後も、広重はさらに多くの風景画を手掛けています。初期の作品から円熟期の風景画まで展望します。



京都名所之内 嶋原出口之柳 天保5年頃(1834)

京都を題材にした全10図の揃物で、嶋原を描いた1図。嶋原の周囲には塀と堀がめぐらされ、大門を出入口とした。大門の前で賑やかに騒ぐ客と一瞥する花魁らを対比している。

第3章 多才な画風—花鳥画・戯画・物語絵

風景画のほかに広重の人気を支えた花鳥画、《東海道五拾三次》で折々に見せたユーモラスな表現性を展開させた戯画、また風景画で培った見事な雪景表現を活かした物語絵《忠臣蔵》など、広重の多才ぶりも取り上げます。

「三日月の 船遊山して みづくの 耳に入れたき
 松風の琴」という狂歌が添えられている。眼を閉じたミズクは愛らしく、松風の音に聴き入っているようだ。



三日月にみづく 天保(1830~1844)前期

第4章 晩年の風景画—名所江戸百景・風景画の集大成

広重は晩年、近景の極端なクローズアップなどによって遠近感を強調する手法を用いました。広島県の名所を題材に含んだ《六十余州名所図会》や印象派の画家ゴッホも模写した《名所江戸百景》などで、広重風景画の集大成を紹介します。

隅田川に架かる新大橋の風景で、対岸の町並みは雨にかすんでいる。雨の描線は、角度や濃さが異なり、複雑な動きを表現している。



名所江戸百景 大はしあたけの夕立 安政4年(1857)

第5章 卓越した描写力の肉筆画

絵師・彫師・摺師による分業が当たり前の浮世絵版画とは異なり、肉筆画は絵師自身による精緻な筆使い、微妙な濃淡の使い分け、荒々しいかすれなどが感じられる一点物です。広重自身の淡い色彩感覚、軽やかな筆使いを味わうことができます。

豪華な打掛に緋色の袴を着けた王朝風の女性。江戸市中の女性を多く描いた広重には珍しい作品である。



官女図 嘉永(1848~1854)頃

第6章 雪月花—絵師たちが描いた叙情の世界

広重の風景画には、雪月花の風情が取り込まれています。江戸時代後期の浮世絵では、とりわけ美人画の演出において、雪月花は重要な役割を果たしました。広重と同時代を生きた浮世絵師の美人画を中心に、浮世絵と雪月花の関係を紹介します。



初代歌川豊国 今様十二月霜月 文政5年(1822)

当世美人の十二ヶ月各様の風俗を団扇の表裏で計24図に描いたもので、その1図。傘を差して雪見をする女性の姿は、浮世絵美人画の定番であった。

【媒体掲載用の画像提供について】

※いかなる場合も本プレスリリースからの転用は御遠慮ください。

※都合により出品作品が異なる場合がございます。御了承ください。

※画像については提供が可能です。画像掲載の際には、当館までお問い合わせください。

※画像掲載の際には、画像とテキストが掲載されたレイアウト原稿を事前に当館まで提出いただき、1週間程度お時間を頂戴いたします。

【関連イベント】

講演会(共催:広島県立美術館友の会)

テーマ:「広重 東海道五十三次のミステリー」

講師: 中右瑛(本展監修者/国際浮世絵学会常任理事)

日時: 12月17日(金) 13:30~15:00 [開場13:00]

場所: 地階講堂

※聴講無料、要事前申込(TEL.082-221-6246)

学芸員によるスライドトーク

日時: 1月7日(金)、1月28日(金) 各日10:30~11:00 [開場10:00]

場所: 地階講堂

※聴講無料、要事前申込(TEL.082-221-6246)

学芸員によるギャラリートーク(ワイヤレスガイド使用)

日時: 12月24日(金)、1月14日(金) 各日10:30~11:00

場所: 3階展示室

※要入館券、事前申込(082-221-6246)、定員8名(先着順)

インスタライブ配信

当館公式インスタグラムからギャラリートークを配信

日時: 12月23日(木)、1月20日(木) 各日17:00~17:15



公式インスタグラム

学芸員とお庭散策「縮景園の名所を歩く 広重の名所絵にちなんで」

日時: 1月15日(土) 13:30集合

集合場所: 美術館1階ロビー

※要入館券、入園券、事前申込(082-221-6246)、定員10名(先着順)

【大広重展ぬりえ】

当館HP、TwitterまたはFacebookからデータをダウンロードして、ぬりえにチャレンジ。

※ぬりえ提示の方は、当日料金より200円引きで御鑑賞いただけます(1枚1名様限り)

※その他の割引との併用はできません。



【「#広重展と縮景園」コラボ企画】

縮景園で撮影した思い出の写真はありますか。広重の「雪月花」にちなんで、縮景園の雪景や夜景、四季の花を、TwitterまたはInstagramに「#広重展と縮景園」をつけて投稿してください。

※投稿画面提示の方は、当日料金より200円引きで御鑑賞いただけます(1名様限り)

※その他の割引との併用はできません。

【県美×ひろ美 相互割引】

「大広重展—東海道五拾三次と雪月花 叙情の世界—」の会期中、2館で相互割引を実施！

下記の特展チケット(半券可)を受付に提示いただくと、本展当日料金より100円割引。

詳しくは各館にお問い合わせください。

※1枚につき1名様限り、他の割引との併用はできません。

ひろしま美術館(中区基町3-2[中央公園内]) / TEL 082-223-2530

生誕120年記念 荻須高德展—私のパリ、パリの私—

2022年1月3日(月)～2022年3月13日(日)

【ワンコイン縮景園】

本展入館券の提示により、100円で縮景園に入園いただけます。

【開催概要】

メインタイトル：大広重展－東海道五拾三次と雪月花 叙情の世界－

英語名：UTAGAWA Hiroshige: The Series Fifty-three Stations of the Tokaido Road and Lyrical World

会期：令和3(2021)年12月17日(金)～令和4(2022)2月6日(日)

休館日：12月25日～1月1日(年末年始)

開館時間：午前9時～午後5時(金曜日は午後7時まで)

※12月17日は午前10時から ※入場は閉館の30分前まで

料金：一般 1,400円 高・大学生1,000円 小・中学生700円

※前売り・20名以上の団体は当日料金より200円引き

※学生券を購入・入場の際は学生証の提示をお願いします。

※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳及び戦傷病者手帳の所持者と介助者(1名まで)の当日料金は半額です。手帳を提示してください。

前売券販売所：広島県立美術館、セブンチケット(セブンコード：091-303)、ローソンチケット(Lコード：62766)、チケットひあ(Pコード：685-813)、広島市・呉市内の主なプレイガイド、画廊・画材店、ゆめタウン広島、中国新聞社読者広報部などで販売しています。

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、開館情報に変更の生じる場合がございます。最新情報は広島県立美術館(電話・HP・SNS)まで

開催クレジット

主催：広島県立美術館／広島テレビ／イズミテクノ／中国新聞社

後援：中国放送／広島ホームテレビ／テレビ新広島／広島エフエム放送／FMちゅーピー76.6MHz／エフエムふくやま／尾道エフエム放送／FMはつかいち76.1MHz／FM東広島89.7MHz

協賛：大田鋼管／広島県信用組合／一般財団法人ケンシン地域振興財団

協力：永谷園

特別協力：中右コレクション

企画協力：ステップ・イースト

問い合わせ先：広島県立美術館

〒730-0014 広島市中区上幟町2-22

TEL.082-221-6246 FAX.082-223-1444

E-mail：iroeuma2@gmail.com

担当：学芸課 隅川 明宏

広報担当：総務課 一色 直香、弘津 かおる

来館の皆さまへ

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、以下の対策を行っています。御理解と御協力をお願いします。

■ 次に該当するお客様は、入館を御遠慮ください。

・発熱や、軽度であっても咳・のどの痛みなどの症状があるなど
体調の悪い方

■ 協力をお願いします

・正しいマスクの着用、手指のアルコール消毒、咳エチケット
・会話は控えめにし、特に大声での会話は行わないでください。
・人と人との接触を避けるため、できるだけ1mの距離を空けてください。
・来館者が多い場合は、入場制限を行う場合がございます。